

## 議事概要

会議の名称	令和3年度第2回三田市子ども審議会
開催の日時	令和4年3月16日（水）10時00分～11時30分
開催の場所	オンライン会議
出席した委員の氏名	名須川知子会長、中西利恵副会長、尾上尚司委員、渡邊秀仙委員、杉山さやか委員、高井聡子委員、藤原慶子委員、上原千晶委員、原口富美子委員、大島一晃委員、大塩 謙委員、坂田和子委員、狩野かおり委員
出席した職員の職及び氏名	〈事務局〉 岸本子ども・未来部長、横溝子ども未来室長、西垣戸子育て応援室長、外岡学校教育課次長、井上保育振興課長、松本幼児教育振興課長、浅野教育総務課長、山本学校教育課長、増田幼児教育振興課係長、田中すくすく子育て課係長、栗倉保育振興課主任
傍聴人の人数	0名
議題	(1) 新設認可保育所に係る利用定員について（資料1）
報告	(1) 三田市立幼稚園再編計画について（資料2）
会議の概要	P2～11
公開・非公開の区分	公開
使用した資料	【資料1】 新設認可保育所に係る利用定員について 【資料2】 三田市立幼稚園再編計画
連絡先	子ども・未来部 子ども未来室 すくすく子育て課 電話 (079) 559-5079

## 会議経過

### 1. 開会

【子ども・未来部長あいさつ】

【委員欠席4名 過半数以上の出席があり会議成立】

【傍聴者0名】

### 2. あいさつ

### 3. 協議事項

#### (1) 新設認可保育所に係る利用定員について

〈事務局より説明〉

会 長：子ども・子育て支援法により当審議会で審議することが決まっております新設のほし  
さと保育園の利用定員に関するご説明に対して、ご質問、ご意見ある方はお願いいたし  
ます。

〈特になし〉

会 長：それでは協議事項（1）の内容につきましては、本日の説明内容に沿って進めていくと  
いうことで事務局よろしく願いいたします。

### 4. 報告事項

#### (1) 三田市立幼稚園再編計画について

〈事務局より説明〉

委 員：9ページ以降にある「VI 再編にあたっての留意事項」について、ここら辺が地域との  
協議をする中でいろいろと地域と話し合われてきた内容なのであろうということが分か  
りました。地域からどのような懸念が出てきて、それに対して合意が取れている点、話  
し合いが未解決な部分を改めて教えていただきたいです。9ページの下（2）「認定こ  
ども園の運営方針等の決定」に関連してですが、今回の再編計画で混乱したのが、市側  
がこういうふうにしますということ、地域側からすると一方的に決定事項を押しつけ  
られたかのように受け取った、受け取られたということだと思います。もちろん適切な

手続を取ってされたのですが、地域側からするとそうは感じ取れなかった点に、コミュニケーションのギャップを大変感じたのだろーと思っっています。認定こども園を新しく開設するにあたり、農村地域の地域活性化も目的であるのであれば、なおのこと地域の意思決定への参加が必要だと考えています。コミュニティスクールも幼稚園でも導入できるはずですし、意思決定の過程から、PTAをはじめとした当事者の住民参加を丁寧に進めていっていただきたいと思っいます。

会 長：地域との合意について、ご意見に対する事務局からの説明がありましたらよろしく願っいたします。

事務局：幼児教育振興課です。1つ目として、9ページの「VI 再編にあたっての留意事項」に記載がある合意形成の部分についてです。令和2年8月から令和2年度及び令和3年度の各7回の意見交換会、それから令和3年度に出張意見交換会をさせていただきました。多くの方が集まる意見交換会の中では、なかなかご意見を発言しにくいというご意見がありました。そこで意見交換会の中で提案がありました出張意見交換会という形式で実施し、私どもの方から地域に出向いて少人数の意見交換会の場で、思っおられることをお伺いする機会を設定させていただきました。いろいろとご意見をいただいた中で、計画の中に反映してきているものとしては、例えば「市がなぜ再編をしたいのか」を明確にし、その趣旨をお伝えできるような形で記載をしている点、また、運営方針等の決定にあたっては、住民の方々が参加できて、情報を共有し続けられるように願っしたいと多くの方々からご意見をいただいたところす。そういったことをこの留意事項の中に含める形で、令和2年8月に計画（案）を公表後、令和3年の8月、9月の出張意見交換会を経て、11月に一度8月に公表した修正（案）を三田市総合教育会議の場でも協議していただきました。その後、パブリックコメント手続を経て、さらにもう一度修正を加えたということで、2回の修正を加えて今回お示しをしております。いわゆる合意形成というところで100%ではないかもしれませんが、皆さんからいただいたご意見は、この計画の中に反映させていただいたと考えるところす。それから2つ目のご意見でいただいたとおり、運営方針決定等には開設前から保護者や地域住民の方々に参加いただくことが大切であると考えており、丁寧にご意見を聞きながら開設準備を進めていきたいと考えております。

会 長：ここは非常に大事なところで、これまでのような方向ではなく、せつかく新たに再編するわけですから、新たな地域等が参画する園をつくるという意味も含め、今までの日本全国で見たことがないくらい、地域のコミュニティと共に上手く再編を進めたモデルになるといいなと思っいます。そうした取り組みを目指し「三田モデル」としてPRされると、学校づくりという意味で日本全国の幼稚園を再編する際の大変良いモデルになるの

ではないかと思えます。そうしたポジティブな視点で取り組んでいただけたらと思えます。

事務局：幼児教育振興課です。再編される園は、これまでから各地域の方々に愛されてきており、地域の方々も閉園となることに対して寂しさや不安を感じておられます。私どもとしましては、園区が広くなるという捉え方を地域の方々に是非ともしていただけるように、協議をするにあたって自分たちが参加をしたと感じ取れるような場づくりをしながら進めていくということが大事だと思っております。

会 長：保育の内容に関しても地域の方のご意見を聴きながら進めることが、結局は地域の皆さんを味方につけるということにもなるし、子育て支援の質を高めることにもなりますので、よろしくお願ひしたいと思えます。

委 員：6ページ(4)幼稚園再編のめざす姿「保育サービスの拡充のイメージ」のところで、再編後の三田、三輪、松が丘幼稚園は、1号認定の子どもの預かり保育は、長期休業中はなしとなっていますが、長期休業中も希望される方が多いのではないかと、また16時30分までにお迎えに行くというのは、特に農村地域の方には厳しいのではないかとと思えます。この時間帯の設定と長期休業中はなしについては、どのように考えられたのか教えていただけますでしょうか。

事務局：幼児教育振興課です。市立幼稚園10園を認定こども園2園と幼稚園3園に再編をさせていただくわけですが、スケジュールで申し上げますと令和6年度に(仮称)三田西認定こども園を開設し、その翌年度に(仮称)三田東認定こども園を開設する流れです。今回の預かり保育についての時間帯の設定と長期休業中の取扱いについては、現在、市立幼稚園で働いていただいている先生方、つまり、今私どもが持ち合わせている人材資源を活用し今できることを考えての設定とさせていただきます。1号認定の利用のお子さんであっても預かり保育を利用されたいというニーズがあることは、私どもも承知しております。ただし、先ほど申し上げたように、この農村地域にいらっしゃる子どもたちが、なかなか集団が確保できない中で、お友達同士での学びができない状況を、現段階の計画としてはまずは解消したいと考えておまして、そのために私どもが現在できる体制を考え、お示ししております。委員がおっしゃられましたニーズはもちろんあると思えますので、農村地域での認定こども園化で十分かは分かりませんが、今後、その辺も踏まえながら拡充できる部分があれば順次対応していくという流れになると考えております。

委 員：承知しました。まだ開設まで時間もありますから、人材資源の確保も早めにしていかな

いと、実際に利用される方のニーズに沿っていかないのではないかと思いますので、今後、現状を踏まえてご検討いただければありがたく思っています。

会 長：ありがとうございます。この問題は幼稚園だけの問題というよりは、三田市の中でどの地域に住むかというもっと根本的な問題に関係していると思います。日本全体の問題でもあるのですが、いろいろな地域にたくさんの人が住みコミュニティができるということは、大きな意味で地域の在り方に対する三田市の考え方にも関係すると思いますが、再編と絡めて議論はあったのでしょうか。

事務局：幼児教育振興課です。地域の様々な在り方の議論にまで、この幼稚園の再編計画の策定の段階で深く踏み込んでできているかと言われると、そこまでは至っていないところではあります。ただし、先ほど申し上げましたように農村地域の中に東西1園ずつとはいえ、市立の認定こども園を設置することで、以前からのその地域のコミュニティがこれからも引き続き活性化をしていき、若者世代や子育て世代が定着をしていくことが必要であるという認識の下に計画をつくっているというところではあります。私どもは幼稚園を担当している部署でございますので、地域を活性化するにあたっては庁内他部署との連携も大変必要になってきます。今回、再編計画を策定するにあたって、地域の皆さんからも地域の活性化についてもご意見を頂戴しておりますので、幼稚園再編は一つの契機ではありますが、庁内の関係他部署を含めて全体的に取り組んでいかなければならない問題であるという認識を持ちながら、この計画の策定を進めているところでございます。

会 長：市立幼稚園として残ることはすごいことであり、その姿勢は私も高く評価したいと思います。残すのであれば、もっと地域を活性化するような契機にすれば、三田市がさらに良くなるのではないかと思います。是非、地域の協議会とも関わるところだと思っておりますので期待しております。日頃感じておられることを一言ずついただける時間でもありますので、各委員にご意見をいただきたいと思っております。

委 員：今回の再編計画をお聞きしてやっとここまで進んできたというのが実感です。小学校も中学校も含めて、子どもたちは子どもの中で育つものですから、その機会を大人の理由で奪っていたのではないかと一番心配していたのですが、これから順次進めていただけるということで安心しました。ありがとうございます。

会 長：ありがとうございます。本当に大事なことだと思います。

委 員：恐らく、本日いただいた会議資料は各PTAの会長さんたちはお持ちでないと思うので、

また配付していただければと思います。それから組織的なことですが、幼稚園と小学校でPTAを組織しているところが非常に多いのですが、このPTAの会の形もまた変わっていくのかなと思っております。また、幼稚園から小学校に入学する時に、新設の認定こども園でできていた親同士のつながりが一旦別れてしまう、子どもたちのつながりも寸断され、地元地域の少ない集団の方に戻ってしまうというようなところが、いま一つイメージとしてよく分らないのですが、この辺りについてはどのようにお考えでしょうか。

会 長：ご質問がありましたので、事務局からご説明よろしく申し上げます。

事務局：幼児教育振興課です。おっしゃるとおりPTAの組織は、地域の幼稚園、小学校と一体になっているところもあれば、幼稚園単独で組織されているところもあります。3園なり4園なりが、1つの認定こども園になるということで、その在り方というところは、これまでの連続性がどのように担保できるのかについては、私どもも今、具体的にその方法を持ち合わせていないところではあります。幼稚園や認定こども園を卒園しますと、それぞれの小学校区の小学校に入学されることとなりますので、連続性をどう担保していくかについて、地域の方々、保護者の方々にご相談しながら決めさせていただくということになろうかと考えております。

委 員：このような問題が起こっているのは、三田市だけではないと思いますので、他の地域での例を事例として紹介していただけると、ある程度、保護者もイメージをしやすくなると思うので情報提供いただくと非常にありがたいと思います。

会 長：事務局から補足などありますでしょうか。

事務局：学校教育部です。他市の例について伝えさせていただきます。他市の例でも、幼稚園がまず集約されて小学校では分散して、また、中学校で集合するという形となるところが実際にあります。まず、保護者にとっては、幼稚園でのPTA活動で、初めて地域との関係をつくる経験をされることになると思います。それが小学校区に分かれたときに、幼稚園の場合は3年間の集団から小学校では6年間の集団になり、一旦エリアとしては狭くなるのですが、また中学校でさらに広いエリアの集団になるということが想定されます。そういった期間の違いはありますが、PTA活動を地域の方々の人間関係という面で広く捉えると、地域の中ではその人間関係が継続され、あまり大きな混乱なく住民それぞれのつながりが維持されているという実際活動されている方からの声の例もあります。地域の中でPTAなどを通して、状況が変わっても関係性を継続されていくことを想定していただきたいと思っています。

会 長：地域をベースにして、いろいろ出たり入ったりはするけど、また戻れるようなこともPTA側からも工夫していただけたらというイメージでよろしいでしょうか。ありがとうございます。

委 員：幼稚園に現在、子どもを通わせている保護者からの意見として言わせていただきます。6ページの再編後の1号認定の子どもの預かり保育の時間帯や長期休業中のなしのところですが、やはり実際に幼稚園に子どもを通わせている保護者の感覚からすると、この状況はちょっと不安かなと思います。現在、働くお母さんもすごく増えてきていて、子どもが年中や年長になったらパートを少しするとか、仕事をだんだん増やしていく保護者が増えており、私立幼稚園でも新2号認定を受けて働くという人も増えています。「再編後の幼稚園の場合は、その新2号認定の扱いはどうなるのか」とか、また、預かり保育の時間帯や長期休業中の対応についても、できる限り預かり保育を充実していただければ、保護者も安心して市立の幼稚園に子どもを通わせられると思えるのではないかと思います。

会 長：ありがとうございます。事務局から何かご意見ありますでしょうか。

事務局：幼児教育振興課です。市立幼稚園は現在約250名のお子さんに利用していただいております。新2号の認定者の割合は約16%くらいです。確かに、預かり保育が16時30分までや長期休業中の預かり保育がない点についてはご要望がないわけではございません。今後、考えていかなければいけないかなというのは、先ほど質問のときにもお伝えしたとおりです。農村地域の10人もいないような園の子どもたちを一定の集団が確保される中で育てられる環境づくりを、認定こども園化を進めることでまず目指しているところです。もちろん一度に全てできれば望ましいのですが、そういったご希望をお聞きしながら段階的に進めていきたいと考えています。

会 長：基本的に子どもたちは14時までは集団ですが、そこから先は預かり保育として、ゆったりした家庭的な雰囲気です。そのメリットも大変大きいですが、今はなかなか難しいところがあるとは思いますが、要望としては絶対これから増えてきますし、利用する側としても一番のポイントだと思いますので、この点を視野に入れて段階的にやっていただく方がよいかなと思います。これは利用する方々のご意見として真摯に受け止めてほしい、強い要望があると私も思っております。

事務局：幼児教育振興課です。三田、三輪、松が丘幼稚園は、農村地域と違い地域性として、立地が民間の保育施設と近接しているというのがあります。もちろん、三田、三輪、松が丘幼稚園でニーズがないわけではありませんので、先ほどのご説明のとおり段階的にとい

うことになろうかと思えます。

委員：全体として2年間関わらせていただいたの感想です。私自身三田で子育てしておりますが、今回この会議に出させていただいて行政では、いろいろと細やかなサービスを提供されているということを知りました。しかし、実際には、毎日仕事をして子育てをしながら過ごしていると、なかなかそういったサービスがどこで行われているかなど、掲示なり配布なりでキャッチすること自体が難しかったりします。いろいろと子育てで困られている方や毎日忙しくされている方々が、いろいろな行政のサービスをキャッチできるように保育所からももう少し発信できることがあるのではないかと思います。あと、コロナ禍で本当に子どもたちの保育活動も制限されていることがたくさんあるのですが、親としても子どもを伸び伸びといろいろな所で遊ばせてあげたい、いろいろな経験をさせてあげたいという思いもあります。コロナ禍で難しい状況にはありますが、行政のサービスも利用しながら私たち大人がいろいろと工夫をし、子どもたちがそれぞれの年齢や発達に応じた経験を重ねていけるように保障してあげたいと思いました。ありがとうございました。

会長：保育所でも発信して、少しでもキャッチできるようできればというご提案ありがとうございます。

委員：今回の再編で、親も子ども他の地域の方とのつながりができる選択肢が増えて、いろいろな意味で選択肢が増える可能性があるのではないかと捉えています。もちろん、これまで関わってきた地域の方が、これまでどおり地域の子どもたちと関わる機会を維持するのも大変大事だと思います。コミュニティスクールともつながるように、幼稚園、小学校で親も子ども人とのつながりが途切れないように関われる機会があればいいなと思います。新設の認定こども園がどのように運営されるのか分かりませんが、運営においては、地域の方も入って教育や遊びに関わる形があってもいいのかなと思います。高平地区は学生さんがすごく頑張ってもらっちゃってお聞きしているので、学生さんたちの力もお借りしながら子どもたちが、多世代にわたり幅広い人間関係に関われる機会がたくさんあれば、地域全体として三田市全体として活性化すると思います。例えば、私立幼稚園ではできないようなことが市立幼稚園ではできる可能性もあるのではないかと思いますので、市の若者のまちづくりを推進されている部署とも連携をしながら、運営を考えていただけたらと思います。ありがとうございました。

会長：ありがとうございます。市立というところで行政が主導しやすいところというものもあるかと思いますので、良いアイデアをいただいたのではないかと思います。



委員：2年間、合わせて4年間携わらせていただきまして、三田市は農村部とニュータウンがあり、いろいろなことが難しいなと実感していたところです。今回、再編される認定こども園は3歳児からが対象ですが、今後は地域の活性化のため、例えば、三田の農村部で若者の就農をアピールしていくような際にも、「都市部まで出ていかななくても、自分たちの住んでいる地域で、安心して子どもを預けて、仕事に就いていただくことができますよ」というように、0歳児からの保育も含め今後の認定こども園の在り方については考えていただければと思います。市内どこに住んでいても等しく、誰もが仕事もしながら、安心・安全で子どもを預けて、コミュニティにも参加していけるように三田市の今後の検討を望んでおります。ありがとうございました。

会長：ありがとうございます。農村の地域性をうまく生かした形で活性化できるモデルとなるものができたらというご提案ありがとうございます。

委員：中学生、高校生、大学生の世代を対象に、この1、2年のコロナの期間いろいろとまちの方々と関わってきました。三田市とは、大学生の食料配付企画なども一緒にやらせていただきました。コロナをきっかけに様々な困りごとがある中で、専門家の人をいきなり増やすことは難しいため、「第一発見者になれる人たちをまちの中に何とか増やしていきたい」ということから、地域づくりとして「子ども・若者居場所ネットワーク」というものを是非つくりたいと思って取り組んでいるところです。やはり、この期間の中で孤立というのが非常に問題になっていて、子ども、若者も声を上げられないというのが課題になっています。話を聞いてみると「声を上げられない、助けてと言えない」子どもたちの場合、その親も「ちょっと助けて」となかなか言い出せない方が多いです。自分自身が頑張れば何とかなると、自分の子どもだからという責任を背負い込んでしまっている親は結構多いと思います。「ちょっとは人に頼ってもいいのだよ」ということを早い段階から経験していないと、ある程度年齢を重ねてから「こんな行政サービスがありますよ」と言われても、「私は別に困ってないから」「対象ではないと思うので」と思い込んでしまっている方もいます。こうした方々に、なるべく早い段階から関われるきっかけをつくれたらいいなと思っています。また、今回、認定こども園として新しいものをつくるのであれば、今までの既存の園に縛られずに自由なものができるのではないかと思いますので、それも含めて地域と今後どのように関わっていくのか、またこれから議論できることを楽しみにしています。ありがとうございました。

委員：2年間ありがとうございました。私は、一番初めの幼稚園再編計画（案）からすれば、本当にすごく進んだのではないかと思います。当然、全員が満足する内容というのはなかなか難しいと思いますが、三田市側としても地域の声をなるべく拾って、実際、留意事項という形にまとめていただいております。これができて、ようやくスタートラインに

立ったので、是非、この実行段階で地域の人たちに「本当に良かったね」と言っていたような内容を共につくっていただきたいと思います。また、ここに書かれているような再編前の園区に出向くアウトリーチ型の子育て支援などはいろいろな可能性がありますし、今まで以上にフィールドが広がって、より地域の活性化につながる可能性も出てくると思います。会長がおっしゃったように、三田モデルとして他市から視察に来てもらえるような内容に是非していただければと思います。ありがとうございました。

委員：幼児が激減している農村地域において、子どもたち側からすれば集団の中で楽しく遊ぶ中ですくすく育っていけるためにも再編することは良いことだと思いました。9ページの「(1)再編に伴う通園手段の確保 ア通園バス運行の基本的な考え方」のところですが、2号認定者の方は保護者が送迎と書いてあります。「これまでならば、もともとあった幼稚園に行っていたのに、こんなに遠くまで送迎しないといけないのか」となると保護者は大変だと思いますので、時間的に融通をつけられる方は通園バスも利用できるなどの工夫をしていただければ、ありがたいと思います。ありがとうございました。

会長：バスの件なども、せっかくですのでこれを機に活性化も含めて考えていただけたら、ありがたいというご意見だったと思います。ありがとうございます。

委員：2年間させてもらい大変良い経験となりました。三田市が大好きなので、これからも三田市で子育てしたいのでよろしくお願いします。ありがとうございました。

会長：すごく愛ある言葉をいただきました、力になると思います。ありがとうございます。

副会長：会長もおっしゃられていましたが、市立で5園を残すというのは三田市の就学前の教育に対する姿勢として評価できると思います。また、義務教育ではありませんが、5歳児はほとんど100%がそこに通っているわけですから、園というのは先生や友達、地域のいろいろな人、先ほど中学生や高校生の話も出ましたが、そういう人たちと過ごせる公共空間であるのが特性だと思いますので、人的環境だけではなく農村地域の自然などいろいろなものを生かした保育内容も含めて、良いものをつくっていただけたらなと思います。「三田モデル」っていい言葉だと思いました。また、(仮称)三田西認定こども園、(仮称)三田東認定こども園については、それぞれの地域と連携して地域の中核になるような園づくりをされるとともに、三田市が人口急増してきた時期に頑張ってきた私立幼稚園とも連携しながら、最後にみんなが「再編して良かったね」と言えるような方向で進めていただきたいと思います。

会 長：ありがとうございます。皆さまから任期の最後となる本日に建設的なご意見いろいろいただきました。子育てに関していろいろな大人、子どもや若者が一緒に参画し、東・西と円い土俵を舞台に、一丸になって一生懸命できることを取り組んでいくイメージが描けたと思います。今度、我が国では新たなこども家庭庁というものができます。三田市にはそれに先んじて走っていただきたいというエールを送り、これで審議会を終わりにしたいと思います。

## 6. 閉会

事務局：長時間にわたりありがとうございました。委員の皆様におかれましては、2年間、本当にいろいろな視点から大変貴重なご意見をいただきましたこと感謝申し上げます。それでは、これもちまして、令和3年度第2回三田市子ども審議会を閉会させていただきます。本日は、誠にありがとうございました。